

地震発生後の避難先について

南海トラフ巨大地震は
発生確率：30年以内 70%～80%
(10年以内 30%)
中区震度：6弱

6弱



地震発生

※余震などが収まったら、ずっと家に居るのではなく、避難所へ足を運ぶようにし、情報を得たり、現場の作業を手伝うなど積極的な行動が大切です。

家屋居住可？

No

Yes

在宅避難※

避難所（生活避難場所）への避難
(幟町小学校・幟町中学校他への避難)

備蓄必要（最低3日分、希望7日分）

地震災害への備え

地震そのものを防ぐことは不可能です。家族を危険から守るためには、事前の対策（耐震対策・家具の固定など）しかありません。十分な備え（食料品・飲料水・生活必需品の備蓄）があることは実質的なメリット以上に、心理的な安心感があります。まずは身の回りから整えましょう。

家庭内備蓄

※最低3日分（できれば1週間分）の飲料水や食料品を！



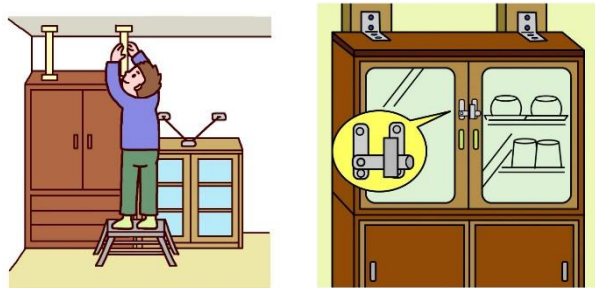
非常持ち出し品の準備

※両手が使えるように必要なものをリュックに！



家具・家電の固定

※家具の種類によって適した方法で固定しましょう！



家具の配置を工夫

※出入り付近には、背の高い家具は置かない！
※就寝位置から家具を離したりするなど！



家族との連絡方法の確認

※地震等災害時を想定して、安否確認・連絡方法・避難先等について、家族との話し合いをしよう！

家庭での防災会議

※地震のときに家族が慌てず行動できるよう、日頃から話し合い、情報を共有しておきましょう！



【このマップは、広島市防災まちづくり基金を活用した防災まちづくり事業により作成したものです】

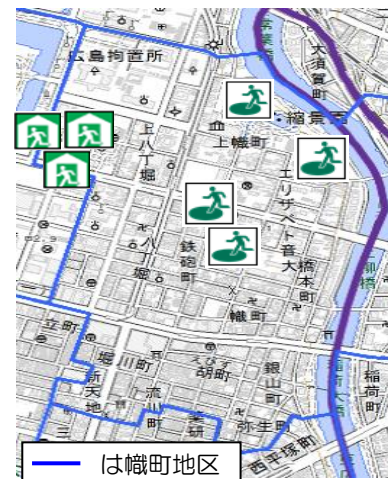
保存版

わが町防災マップ

2019年3月作成
2024年7月改訂

幟町東・中・西・南町内会

防災マップは、自然現象（地震、津波、高潮、洪水、内水）が大きな災害につながらないように（減災）にすために作成する。「危険な区域を含む経路を通らざるを得ない方は、早めに避難してください」。



指定緊急避難場所・指定避難所

※すべての避難場所が開設される訳ではありません。防災情報メールやテレビなどで確認して避難してください。

施設名称	指定緊急避難場所					指定避難所 (生活避難場所)
	洪水	高潮	地震	津波	大火	
幟町中学校	○	2F	—	—	—	○
幟町児童館	○	2F	—	—	—	—
幟町小学校	○	2F	○	—	—	○
縮景園	—	—	○	—	○	—

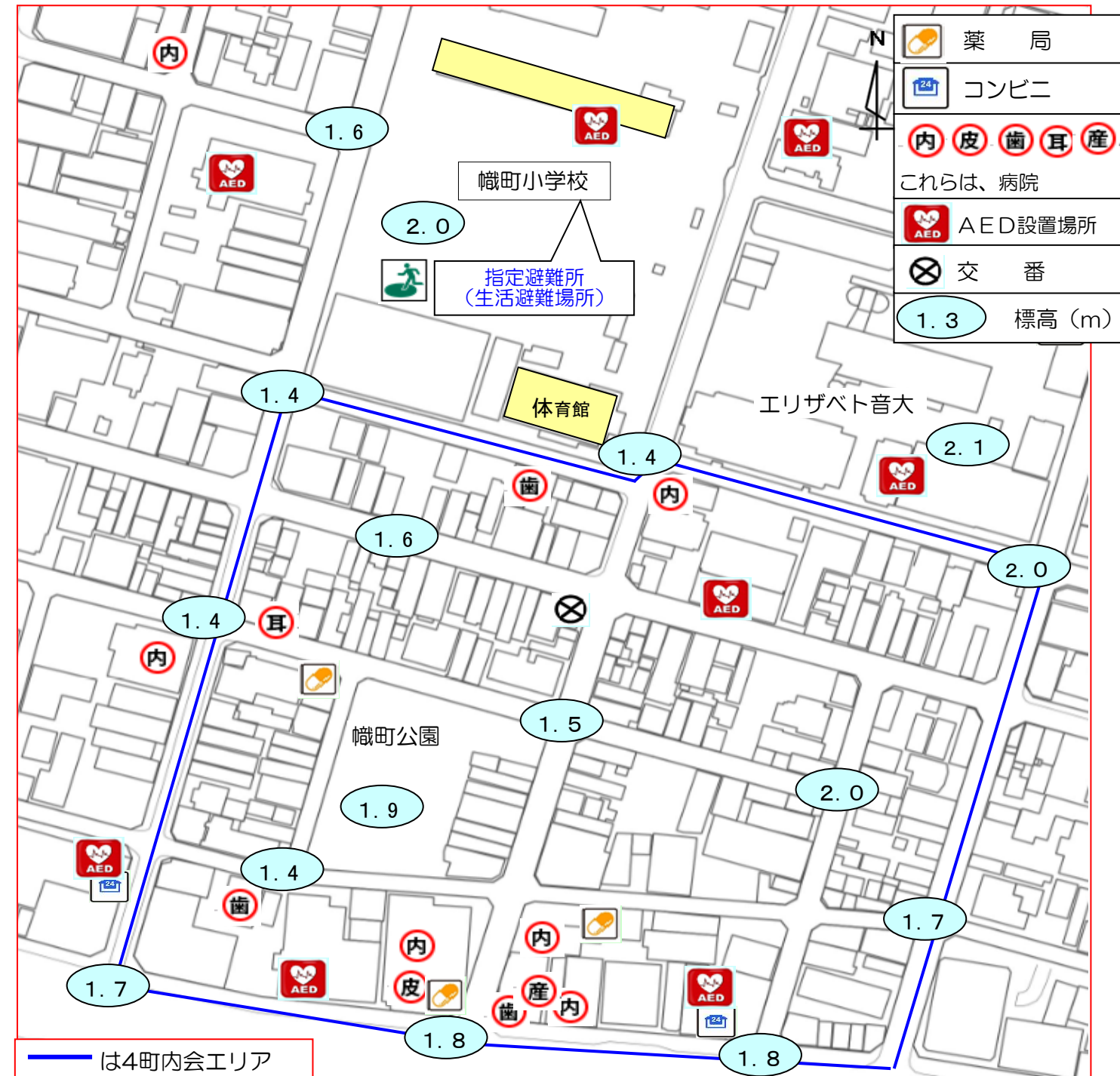
災害種別の欄の「○」印は、その災害に対する避難場所として、指定していることを示しています。数字については、当該施設が浸水想定区域内に所在するため、その数以上の階を避難スペースとして活用できることを示しています。



浸水時緊急退避施設

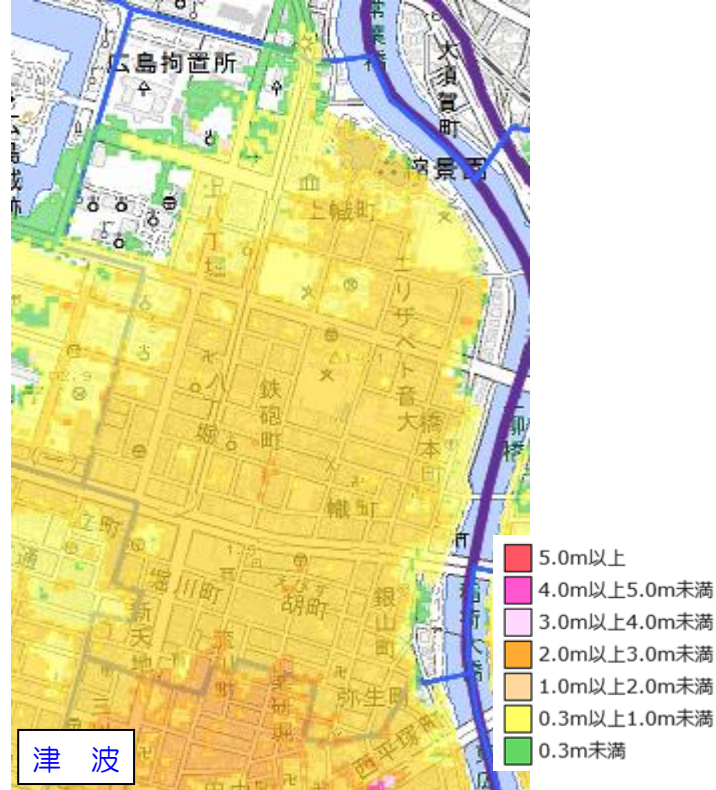
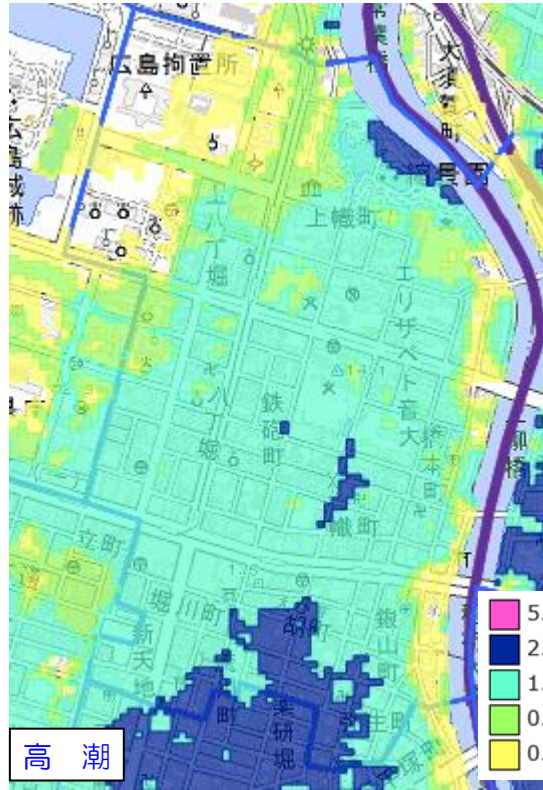
※浸水時緊急退避施設とは、津波、洪水や高潮等の際に、市が開設する指定緊急避難場所等への避難の途中で目前急迫の浸水危険にさらされた場合に市民等が緊急一時的に退避するための施設です。

広島合同庁舎1号館、2号館及び4号館



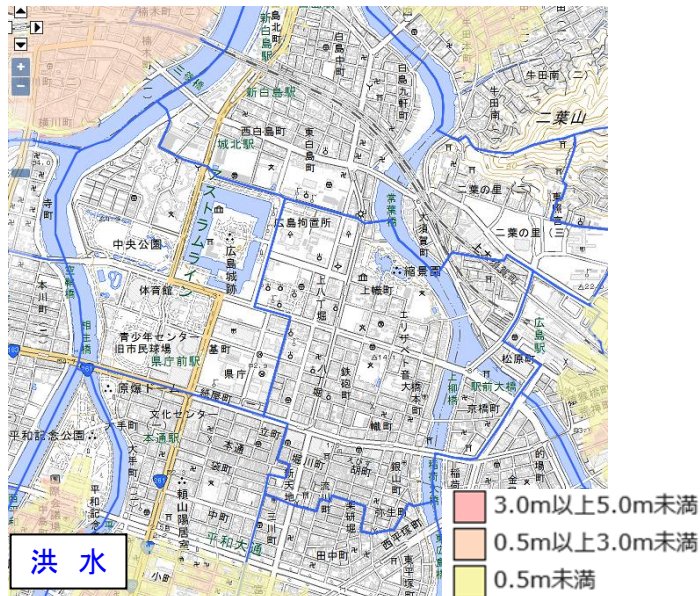
浸水想定

(広島市防災ポータルHPより)

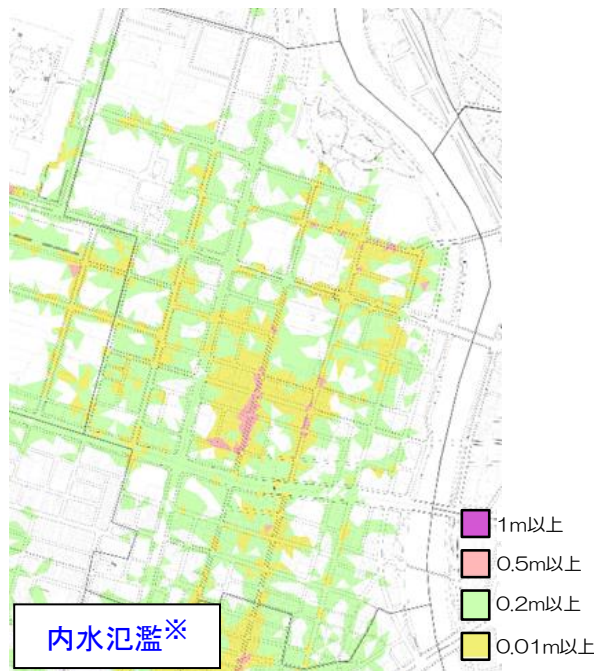


過去最大規模（伊勢湾台風並み）の台風が襲来し、かつ満潮等の最悪条件が重なった場合を想定

南海トラフ巨大地震による最大クラスの津波が、悪条件下（満潮時、堤防が機能しないなど）で発生した場合を想定



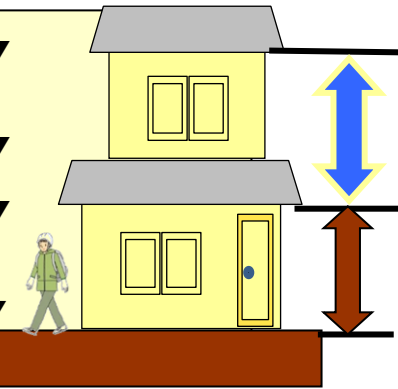
概ね200年に1回起こる大雨を想定
幟町地区は、浸水の可能性が低い。



過去最大降水時（1時間雨量130mm）を想定
（雨水の排水設計値は1時間雨量50mm）

浸水の目安

- 2階の軒下までつかる程度 5m▼
- 2階の床下までつかる程度 3m▼
- 1階の軒下までつかる程度 2m▼
- 大人の腰までつかる程度 1m▼
- 大人の膝までつかる程度 0.5m▼



指定緊急避難場所又は高台など安全な場所に避難してください。

周囲の状況に応じて、指定緊急避難場所又は自宅の2階に避難してください。

※マンションなどでは、想定される浸水深によっては一時的に上階へ避難することもあります。

広島市が被害想定を行っている地震

想定地震	発生確率 (30年以内)	地震タイプ	規模 (マグニチュード)	最大震度
①南海トラフ巨大地震	70～80%※	プレート間	9.0	6弱
②安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震	40%	プレート内	7.4	6弱
③五日市断層による地震	不明	地殻内	7.0	6強
④己斐～広島西縁断層帯による地震	不明	地殻内	6.5	6強
⑤岩国断層帯による地震	0.03～2%	地殻内	7.6	5強
⑥広島湾・岩国沖断層帯による地震	0.1～10%※	地殻内	7.4	6弱

※発生確率は文部科学省地震調査研究推進本部の公表値

南海トラフ巨大地震の中区震度6弱とは

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

「気象庁震度階級の解説」より

防災情報メール



下記の登録用メールアドレスに空メール（件名や本文のない電子メール）を送る。直後に登録用返信メールが届くので、記載されているURL（ホームページアドレス）をクリックし、案内にしたがって登録する。

登録用アドレス: entry@k-bousai.city.hiroshima.jp

携帯電話、スマートフォン及びパソコンから登録できる。



登録用空メール
QRコード

※河川の水を外水と呼ぶのに対し、堤防で守られた内側の土地（人が住んでいる場所）にある水を「内水（ないすい）」と呼びます。大雨が降ると、側溝・下水道や排水路だけでは降った雨を流しきれなくなることがあります。このように、内水の水はけが悪化し、建物や土地・道路が水に浸かってしまうことを「内水氾濫」といいます。